

ねらい

感情的にならずに、心をしずめて穏やかな気持ちになることのよさに気づき、お互いのことを理解し、尊重しようとする心情を育てる

導入

「誰かにすごく腹を立てたことはありませんか。」
・ある ある

けんかになってしまった時の事などを口々に話し、手を挙げて発表する雰囲気にならなかった。

発問①

「あき子の小さい声を聞いて心が少し揺れたとき、ともみはどんなことを考えていたでしょうか。」
・悪いと思っているのかあ 許してあげようかな
・謝ってすむ問題じゃない 許せない

ここに至るまでのあき子の様子を追っていないので、なかなか考えが深まらない。

発問②

「あき子の悲しそうな顔を思い浮かべ、じっとしていられなくなったともみは、どんな気持ちだったでしょうか。」
・ちよつと怒りすぎちゃったかな
・仲直りしたいな

お兄さんとのやりとりからもみの気持ちに変化するの
で、「変な気持ちになった」という部分をしっかり押さえた
い。

発問③

「あき子の家を目指して走るともみは、どんなことに気づいたのでしょう。」
・あき子は何回も謝ってくれた
・はやく許してあげればよかった

一つ一つの発問に児童が答え
板書していく授業で個々の考
えが共有されづらい。

見つめよう 生かそう

「心をしずめるということとは、どういうことでしょうか」
・許してあげようと思うこと
・一人で静かに考えること

板書に「許すか許さないか」という話し合いの結果を残してあったので、最後までそれをひきずる児童が多かった。

終末

「腹が立つこともあると思うけど、相手のことを考えて許してあげる気持ちが必要ですね。」

